



リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.92 県立広島病院 副看護部長 専従医療安全管理者 品川恵己 様



【県立広島病院(広島県広島市)】



【品川様】

■ 病院の概要 (抜粋)

当院は、明治 10 (1877) 年 公立広島病院として創立、昭和 20 (1945) 年原子爆弾による焼失という惨禍を乗り越え、昭和 23 (1948) 年からは、現在の場所で県立広島病院として再発足し、「県民の皆様にあいさされ信頼される病院をめざします」を理念に掲げ、広島県の基幹病院として、高度先進医療や政策医療を積極的に実施し、患者様に満足していただけるよう良質で安全な医療の提供に取り組んでおります。

明治 10 (1877) 年 5 月	公立広島病院として公立医学校内 (広島市水主町) に設立
昭和 20 (1945) 年 8 月	原子爆弾により壊滅
昭和 23 (1948) 年 4 月	日本医療団の解散によって日本医療団広島中央病院の施設の移管を受け、県立広島病院として再発足
昭和 60 (1985) 年 4 月	人工腎臓センターを設置
平成 7 (1995) 年 7 月	母子総合医療センター設置
平成 8 (1996) 年 4 月	救命救急センター、腎臓総合医療センター、地域医療支援センター設置
平成 12 (2000) 年 7 月	総合周産期母子医療センター運用開始
平成 16 (2004) 年 4 月	(財)日本医療機能評価機構認定施設となる
平成 16 (2004) 年 9 月	緩和ケア支援センター開所
平成 18 (2006) 年 8 月	地域がん診療連携拠点病院となる
平成 19 (2007) 年 8 月	地域医療支援病院となる
平成 21 (2009) 年 3 月	成育医療センター開設
平成 26 (2014) 年 4 月	脳心臓血管センター開設
平成 27 (2015) 年 4 月	腫瘍センター開設

【病床数 712 床】

■ 病院理念

県民の皆様にあいさされ信頼される病院をめざします。

■ 基本方針

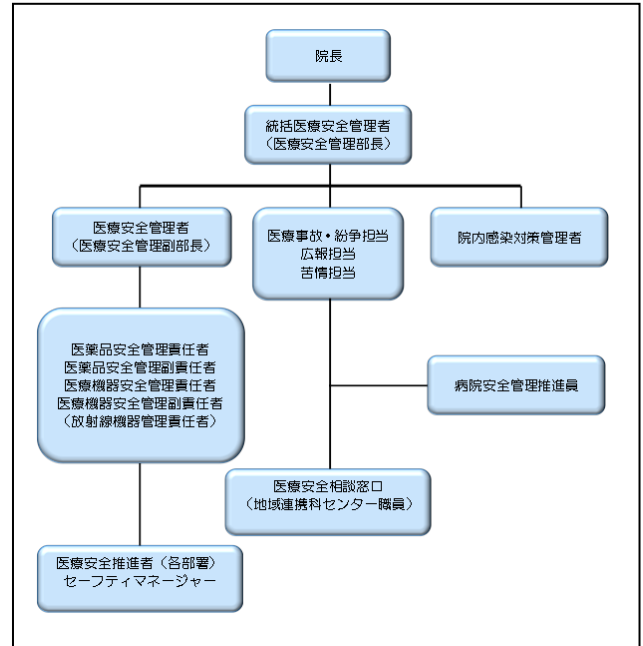
1. 患者様の権利を尊重し、真心のこもった医療を実践します。
2. 医療事故ゼロを目標として、患者様の安全対策に努めます。
3. 県の基幹病院として、21 世紀の高度・先進医療を推進します。
4. 各医療機関と連携を強め、地域医療の充実向上に貢献します。
5. 健全な病院運営に努め、良質な医療サービスを提供します。

1. 組織体制について

医療安全管理体制について教えてください。

医療安全管理部は院長直下に組織されており、私を含め、2名が専従で活動しています。医療安全推進の要として事故につながる可能性のある事象など広くモニターし、調査・分析の結果をフィードバックして教育やシステム改善を行っています。

また、各部署にはセフティマネージャーが配置され、所属部署の医療安全を推進しています。



【医療安全に関わる組織図】

品川様の主な業務内容を教えてください。

下記の医療安全の業務規定に沿って活動をしています。

- (1) 報告制度を基盤とした医療安全の活動
 - ① 提出されたインシデントレポート等の分析、予防策の立案と提案
 - ② 緊急度が高い事案への対策
 - ③ インシデントレポート等の件数に明らかな変化が生じた場合の対応
 - ④ インシデントレポート等の提出や情報収集が適切に実施されるための環境作り
 - ⑤ インシデントレポート等の記載方法・内容の指導
- (2) 医療安全のための委員会に関する活動
 - ① 医療安全対策委員会の運営
 - ② 医療安全に関わる各種委員会との連携
 - ③ 医療安全を目的とした部会の運営
- (3) 医療安全のための部署間の調整、対策等の提案
- (4) 医療安全管理のための指針やマニュアルの作成
- (5) 医療安全に関する研修・教育
- (6) 医療安全に関する院外からの情報収集と対応
- (7) 医療安全のための院内評価業務

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

事例情報の収集から防止策実施までの仕組みを教えてください。

電子カルテシステム内のソフトを使用してインシデント・アクシデントを報告することになっており、報告は医療安全管理部、所属部署の師長とセフティマネージャーに送信されます。対策は各部署で検討・実行しますが、事例の情報集約と分析は医療安全管理部で行っています。当院のインシデントレポートシステムは、転倒・転落インシデントについて独自のデータ分析を行うことができますので、病棟の特性を割り出して医療安全管理部から各部署にフィードバックしています。

近年の事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

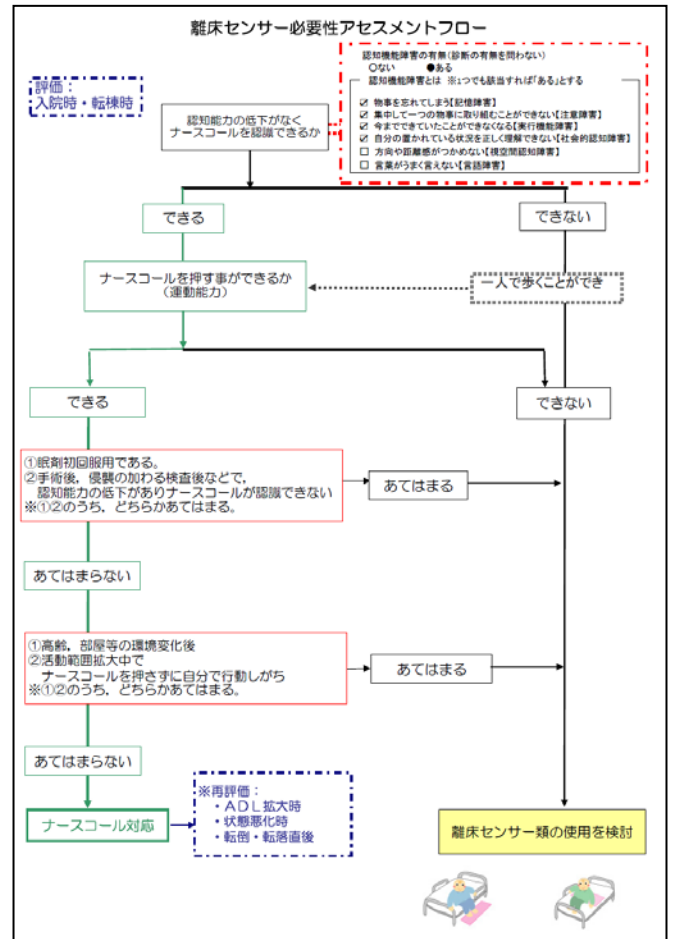
インシデント数は横ばいの状態ですが、アクシデント数は大幅に減少しています。

今年度からは認知症看護認定看護師も協力し環境・人・物で様々な対策を実行しています。環境整備では一般床との比較で外傷が少ない緩衝床への改修を計画的に行い、現在では病床数の38%が緩衝床になりました。物的対策に関しては患者さんの行動把握や、事故の早期発見に効果のある離床センサーを使用しており、使用開始の判断として「離床センサー必要性アセスメントフロー」を参考にしています。

このような取り組みがアクシデントの減少につながっていると思っています。



【全病床の38%が緩衝床】

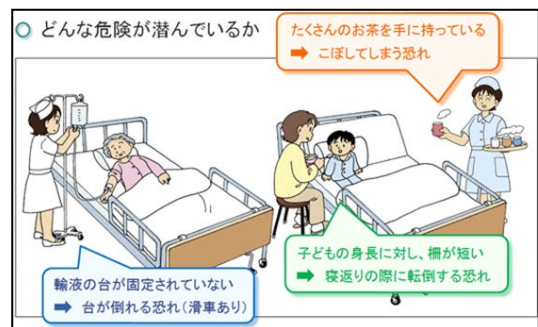


【離床センサー必要性アセスメントフロー】

品川様が特に注力されている活動や、貴院の特徴と思われる取り組みがあれば教えてください。

安全な医療を推進するための4つのワーキンググループがあり、多職種による組織横断的な活動を通して、病院全体で医療安全に取り組む風土を醸成しています。(療養ワーキンググループ・物品ワーキンググループ・与薬ワーキンググループ・DVTワーキンググループ) 特に転倒・転落に関しては、療養ワーキンググループで取り組んでおり、巡視、ケーススタディーやKYT、1ヶ月分のインシデントに対して具体的な今後の対策などを検討しています。

また、安全情報の共有や注意喚起を目的に毎月テーマを変えて「Safety Management News」を作成し、全スタッフの目に届くようにスタッフステーションや、さまざまな場所に掲示しています。



【療養ワーキンググループ・KYT 資料】



【Safety Management News】

3. 医療安全に関する研修および他院との連携について

医療安全に関連した研修の年間実施回数や内容について教えてください。

ワーキンググループや各委員会の話から特に共有すべき内容を議題にあげ「全体研修」を毎月開催しています。

また、「新人研修会」や「職種・ラダー別研修会」を計画的に開催し、転倒・転落に関連した研修会では、経年看護師や新人看護師だけでなく、対策用具を扱う機会の多い看護助手に対してもプログラムを設けています。

地域の病院様と医療安全に関する連携があれば教えてください。

所属の医師会や看護協会、保険協会を通して地域の病院や診療所との連携があり、今年度は外部で6回講演や研修会を開催しました。また、県内500床以上の病院の医療安全管理者が集まる「広島医療安全管理者ネットワーク会議」を運営し、他院と取り組みについて情報交流をしています。

4. 離床センサーについて

【院内使用センサー】

コールマット・コードレス × 50台 / ベッドコール・コードレス × 14台

離床センサーを使用する場合、選択の基準やルールはありますか？

転倒防止や早期発見のために離床センサーを導入しており、他メーカーのものも合わせて約70台が稼働しています。離床センサーの使用基準はフローを確認し、機種を選択は患者さんの状態を総合的に判断し、できる限り行動制限にならないように配慮して使用しています。

離床センサー使用の効果や物的対策への思いを教えてください。

離床センサーは転倒防止だけでなく事故の早期発見にも効果があり、他の対策と合わせて怪我の重症化を防ぐ効果があります。当院は導入数が多く、特にコールへの対応スピードや、夜間にセンサーを使用する対象者の絞り込みなどで課題があります。活用方法を今よりも工夫して更に事故の少ない環境にしたいです。

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

センサーを使用しているうちに、対象者の足が引っかからないか気になることがあるので養生テープでセンサーの端を止めて工夫していますが、本来の簡便な使用方法ではないように思っています。(*)

そして、離床センサーに限らずナースコールシステムが新しくなる度に使用機器のパーツが増えていて不便になってきました。設置するパーツや手順が極力少なくなることや、機器のコードレス化には魅力を感じます。

*)「養生テープ」をご使用の場合は、『弱粘着タイプ』をご利用ください。長期間にわたり「養生テープ」で固定を行う場合は、定期的に「養生テープ」を貼り替え、センサーや床に付着する粘着物を清掃してください。

6. 何か一言お願いいたします。

病院様のPRや、個人のポリシーなどをお聞かせ下さい。

当院は高度急性期医療を目指す病院で、平均在院日数は10.6日と短期です。患者さんが元気に社会復帰されるお手伝いをしたいと強く思っています。その為にも院内での安全な生活には非常に重要な意味があります。これからも院内の安全文化の醸成をより高いレベルで実現できるように努めていきます。